



3年生 国際交流授業10/7(水)

3年生が、JAIST(北陸先端科学技術大学院大学)の留学生3名と英会話を通して交流を行いました。まず、バングラディッシュのハミッドさん インドのネハさん インドネシアのハグスさんの3名の方から英語で自己紹介をしていただきました。国の形や国旗を黒板に書いて説明し、子どもたちは「知っている」とつぶやきながら、興味深く話を聞いていました。次に、留学生へ英語や日本語で質問しました。What color do you like? What food do you like? What sports do you like? などと、これまで習った英語を使って質問できました。留学生の皆さんは一つひとつの質問に英語で分かりやすくこたえてくださいました。インドでは野菜を中心に食べて肉を食べない人が多いことやバングラディッシュではとても辛いものを食べることなど、それぞれの国の生活についても教えていただきました。インドネシアのハグスさんは将来先生をめざしておられ、子どもたちに親しみやすく話してくださいました。実際に英語会話することで、英語に親しむとても貴重な機会となりました。



2年生 生活科 公共施設について学ぶ 10/15(木)

2年生は、生活科で「公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする。」をねらいとして、実際に出かけたり、そこで働いている方に学校に来ていただいたりして、考えた質問をインタビューしました。グループに分かれて、JA、サンテ寺井、能美警察署、能美市役所寺井分室、寺井図書館、寺井地区公民館、寺井体育館、寺井消防署、寺井郵便局に出かけました。学校には、子育て支援センターの方が来ていただきました。昨年まで、寺井保育園の先生をされていて、子どもたちも親しみをもってお話を聞いていました。公共施設のよさや働きを学ぶ機会になりました。

消防車の説明を聞く



4年生 音楽発表会 10/28(水)

寺井小学校の4年生は、毎年、ジュニア文化発表会に参加し、タントの音楽ホールで合奏・合唱を発表しています。今年は残念ながら、感染症拡大防止のため中止となりました。そんな中でも、あきらめず全員が心を一つに合奏「紅蓮華」の練習に励んできました。その成果を音楽発表会(低、高、3年生)で演奏しました。指揮者をしっかり見て、様々な楽器の音色が調和して一つの物語の世界を表現していました。舞台は小さかったかもしれませんが、みんなで心に残る音楽祭をつくりあげることができました。これからも、仲間と心を一つにして成長していきましょう。



合奏「紅蓮華」

避難訓練(火災) 10/26(月)

今年初めての避難訓練(火災)を実施しました。今回のめあては、「火災が発生した時の避難経路が分かる」「『おかしもは』を守って、避難する」「『自分の命は自分で守る』意識をもつ」の3つです。このめあてを事前に各教室で指導して、避難訓練に臨みました。火災はいつ起こるか分かりません。今回は南校舎1階 給食室より出火 東階段は使用不能 青色のB経路を通して運動場へ避難しました。まずは、どこから出火したのか、どの階段が使えないのか、どの避難経路を通して避難すればよいのかなど、放送をしっかりと聞くことが大切です。

次に、「おかしもは」の約束を守ることです。もしも、この約束を守らなかったら最悪どうなるか子どもたちに想像してもらいました。

押し合う・・・早く逃げたいばかりに前の人を押してしまう。これが階段だったら、前の人倒れて人が折り重なって下の人が下敷きになってしまいます。

かける(走る)・・・走る行動は心理的にパニックを引き起こしやすくなります。我先に走ることで転んだ人を踏みつける等して火事以外の被害がでます。

しゃべる・・・どこにどのように避難すればよいかという放送や先生の声が全体に伝わらなくなります。火事が起きてしまう場所に避難してしまい逃げられなくなります。

もどる・・・大事なものを忘れたと取りにもどることで、火事が大きくなって逃げられなくなります。いのちより大切なものはあるでしょうか。

ハンカチ等で口をおさえない・・・一酸化炭素などの有害な煙を吸ってしまい、呼吸ができなくなります。一人ひとりが命を守る「おかしもは」の行動をとることが、かけがえない命を守ることにつながることを伝えました。



避難経路を通り、口をおさえて避難する

6年生 伝統工芸学校出前教室 10/26(月)

第67回日本伝統工芸展金沢展(10月23日~11月3日)に合わせて、加賀友禅作家 須藤真美子様、毎田仁嗣様から、6年生へ伝統工芸出前教室を行っていただきました。本物の加賀友禅の作品も展示していただき、加賀友禅が金沢で受け継がれてきた訳や加賀友禅の作り方等を話していただきました。

毎田様は、デザインを考える時には実際に兼六園などへ出かけ、自然を肌で感じながら自然の美しさからヒントを得るそうです。また、昔の作品の技法から学ぶそうです。終わりに「伝統とは生きて流れているもので永遠に変わらない本質を持ちながら一瞬とどまることもないのが本来の姿である。」という思いを常に持ち続け、新たな作品づくりに挑戦されていることを話されました。須藤様は、半年かけて向き合う手によるものづくりの魅力を話していただきました。手作業なので、失敗は許されない緊張感を常に持ち続けて作品を作られていることを話してくださいました。作家さんから直接お話をきくことができ、伝統工芸の魅力を感じることができたのではないのでしょうか。



毎田先生から、加賀友禅の作り方を聞く